

Fukushima Bank 2023

ディスクロージャー誌〔情報編〕

2022年4月1日～2023年3月31日

FUKUSHIMA BANK DISCLOSURE

おかげさまで

100th

福島のために

お客さまのために

そして未来を育むために



経営理念

福島のために

お客さまのために

そして未来を育むために



福島銀行100年のあゆみ

1922年創業

「湯本信用無尽株式会社」設立



1928(昭和3)年ころの役員員(本社前で)

1938 福島出張所設置認可(福島市に進出)

1939 福島無尽株式会社を吸収合併、
「株式会社福島無尽金庫」と改称
本社を福島市上町に移転



合併当時の福島無尽金庫本社



表町通りに移転した
湯本信用無尽の本社

1951 「相互銀行営業免許」交付
「株式会社福島相互銀行」と改称



福島相互銀行本店

1989 普通銀行転換「株式会社福島銀行」発足

福島銀行CI導入発表会



CI導入発表会

1992 「東京証券取引所第2部」上場
「CI」導入
創業70周年
「公益信託福島銀行ふるさと自然環境基金」設立



CI導入による新看板

1993 新本店を現所在地福島市万世町に移転オープン



福島銀行新本店(福島市万世町)

1996 「東京証券取引所市場第1部」に上場



東京証券取引所

1998 「福銀ローンプラザ」開設

2001 金融庁より早期是正措置発動

2002 総額146億円の第3者割当増資達成



「福銀ローンプラザ」を開設

2002

南東北5行のATM無料提携サービス
「東北おむすび隊」の取扱開始



南東北5行のATM無料提携サービス「東北おむすび隊」パンフレット

2005

福島県内初の福島応援ファンド
「福島応援・外債バランスファンド」を発売



地震直後の本部内の様子



地震1ヶ月後の相馬港付近

2011

東日本大震災の発生
・「復興応援定期預金」発売
・「復興応援ローン」発売

2012

「障がい者施設製品大展示即売会」開催スタート



復興応援ローン復興応援特別金利の各種ローンを期間限定で発売

2014

公益財団法人尾瀬保護団体への寄付を実施
インターネット支店「いつでもどこでも支店」開設
「2014ふくぎん秋・冬8大イベント」開催

2018

株式会社SBI証券との金融商品仲介業務スタート



2019年11月11日、SBIホールディングス株式会社と資本・業務提携締結を発表

2019

子育て支援「ふくぎん子ども絆ローン」
目標100億円到達に伴う寄付の実施
SBIホールディングス株式会社との資本・業務提携契約を締結



2020年1月15日、福島銀行SBIマネープラザ郡山オープン

2020

共同店舗「福島銀行SBIマネープラザ郡山」開設

2021

関連会社が合併し、株式会社ふくぎんリース&クレジット発足
「障がい者スポーツ応援寄付型定期預金」の寄付金贈呈



ふくぎんリース&クレジット発足

2022

100周年記念式典開催
・「東日本大震災ふくしま子ども寄附金」へ寄付
・「公益信託福島銀行ふるさと自然環境基金」助成金授与
県内4地区100周年記念講演会開催



県内4地区100周年記念講演会開催



100周年記念式典開催

To the next 100 years

100周年記念事業

福島のために

公益信託福島銀行ふるさと自然環境基金



NPO法人野鳥の会ふくしま様へ助成金授与

福島県における自然環境の保全を図り自然と人間の調和のとれた社会づくりに資することを目的に1992年に設立されました。

毎年助成を行っており2022年度は31回目。100周年を記念して、13団体へ総額300万円を助成いたしました。

100周年記念 第11回障がい者施設製品大展示即売会

障がいをお持ちの方々の自立をサポートすることを目的に、例年県内の授産施設約90事業所が参加・出展され、本店地下大ホールにて大展示即売会を開催してきました。

2022年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から「カタログ販売」(11/14~12/13)で実施いたしました。

クッキーやお煎餅、キーホルダー、小物革製品など県内50事業所の手作り商品を詰め合わせた「お楽しみ袋」は大変多くのお客さま・お取引先にご購入いただき、授産施設事業の活動支援に繋がっております。

現在まで11回開催し、3,894万円を売上げました。

福島県授産事業振興会 【参加施設】県内47事業所 福島銀行
 099-641-0100 福島県授産事業振興会 専任相談員030 福島県授産事業生活協同組合 4層 4号室 https://www.f-japan.jp
 TEL:024-563-1228 FAX:024-563-1234

お客さまのために

東日本大震災ふくしま子ども寄附金



福島県保健福祉部 ども未来局様へ寄附金授与

東日本大震災による震災孤児等への支援のため2011年12月28日に基金が設立。100周年記念商品の残高等に応じて福島銀行グループとして300万円を寄付いたしました

そして未来を育むために

100周年記念講演会 テーマ「福島の未来」

100周年記念講演会を「福島の未来」というテーマで県内4地区開催。10月15日に福島市、10月22日に会津若松市、11月12日にいわき市、11月19日には郡山市で開催いたしました。



● 福島地区講演会
(講師：SBI新生銀行取締役会長元金融庁長官 五味 廣文氏)

地区	日	時間	会場
福島地区	10/15(土)	開場14:30- 開演15:00-16:30	福島市立中央公民館
会津地区	10/22(土)	開場14:30- 開演15:00-16:30	会津若松市市民会館2階
いわき地区	11/12(土)	開場14:30- 開演15:00-16:30	いわき市市民会館2階
郡山地区	11/19(土)	開場14:30- 開演15:00-16:30	郡山市市民会館2階



● いわき地区講演会
(講師：吉本興業HD取締役副社長 泉 正隆氏)



● 会津地区講演会
(講師：フューチャーエリート代表取締役社長 神宮 由紀氏)



● 郡山地区講演会
(講師：元モーニングスター代表取締役社長 現SBIグループ「アセットマネジメント」代表取締役執行役員社長 朝倉 智也氏)

Fukushima Bank Disclosure



CONTENTS

経営理念	……	1
福島銀行100年のあゆみ	……	3
100周年記念事業	……	5
社長メッセージ	……	8
業績ハイライト	……	9
中期経営計画進捗	……	11
SBIとの連携	……	17
SDGsの取組み	……	19
役員紹介	……	20

PROFILE

本社所在地	福島県福島市万世町2番5号
電話番号	024-525-2525（代表）
設立年月日	1922（大正11）年11月27日
資本金	186億円
従業員数	620名（うち正社員461名）
店舗数	57店舗（5出張所、2リユースショップ、10ショップ、1ネット支店含む）
預金残高	7,646億円
預かり資産	986億円
貸出金残高	6,282億円（私募債含む）
自己資本比率	7.33%（単体）
連結子会社	(株)ふくぎんリース&クレジット (株)東北バンキングシステムズ 福活ファンド投資事業有限責任組合

社長メッセージ



株式会社福島銀行
取締役社長

かとう たかひろ
加藤 容啓

皆さまには、平素より福島銀行をお引き立ていただき、誠にありがとうございます。
2023年3月期決算の概要や、中期経営計画に則った取組みをディスクロージャー誌（情報編）に取りまとめましたので、ご一読くだされば幸いです。

私ども福島銀行は、2022年（令和4年）11月27日、おかげさまで創業100周年を迎えました。顧みますと、当行は、1922年（大正11年）11月に庶民金融を旗印に、現在のいわき市湯本町に湯本信用無尽として創業いたしました。その後本店を福島市に移転し、1993年（平成5年）に福島市万世町に新本店ビルを新築し現在に至っております。

そして2019年（令和元年）11月、SBIホールディングスと資本業務提携契約を締結し、現在は当行とSBIとの二人三脚で「DX（デジタルトランスフォーメーション）に強い銀行」を標榜し、銀行業務を展開しているところです。

これからの地域金融機関には、新たな時代へ向けた自己変革力が問われています。私ども福島銀行は、ビジネスモデルを変革し、お客さま本位の業務運営（FD）を徹底し、本業を支援しながら、お客さまに寄り添い一緒に課題解決を進めていく伴走支援型の金融機関へ変貌し、存在意義を示す必要があります。

当行は現在2024年の稼働を目標に当行、SBI、フューチャーアーキテクト社の3社による「デジタル」と「リアル」を融合した「次世代向けバンキングシステム」の開発を進めています。このシステムの稼働によりまして、お客さま利便性の向上とサービスの高度化が図ることができると期待しています。

100周年を迎え、次の100年を作るために福島銀行は引き続きお客さまとの伴走支援に力を入れて地域経済の発展に貢献できる銀行を目指してまいります。

皆さまにおかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

業績ハイライト（本業収益・当期純利益）

本業収益は5期連続黒字、当期純利益は2期連続黒字を確保

連結では増収増益の実績となりました

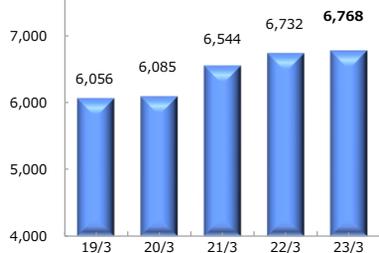
- 単体では減収減益となるも、グループ全体での底上げにより連結では増収増益となりました



●単体・連結の損益状況（単位：億円）

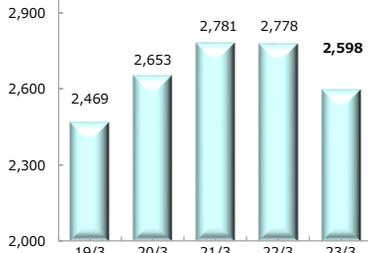
		22/3月	23/3月	前年度比
単 体	経常収益	107	105	▲1
	経常利益	7	10	3
	当期純利益	8	7	▲0
		22/3月	23/3月	前年度比
連 結	経常収益	131	132	1
	経常利益	7	11	3
	当期純利益	8	8	0

貸出金利息



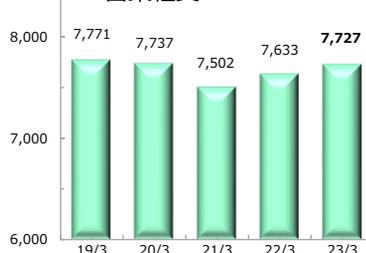
- 消費者ローンの増加により貸出金利息が増加

受入手数料



- 相場環境により投資信託販売、金融商品仲介手数料が減少

営業経費



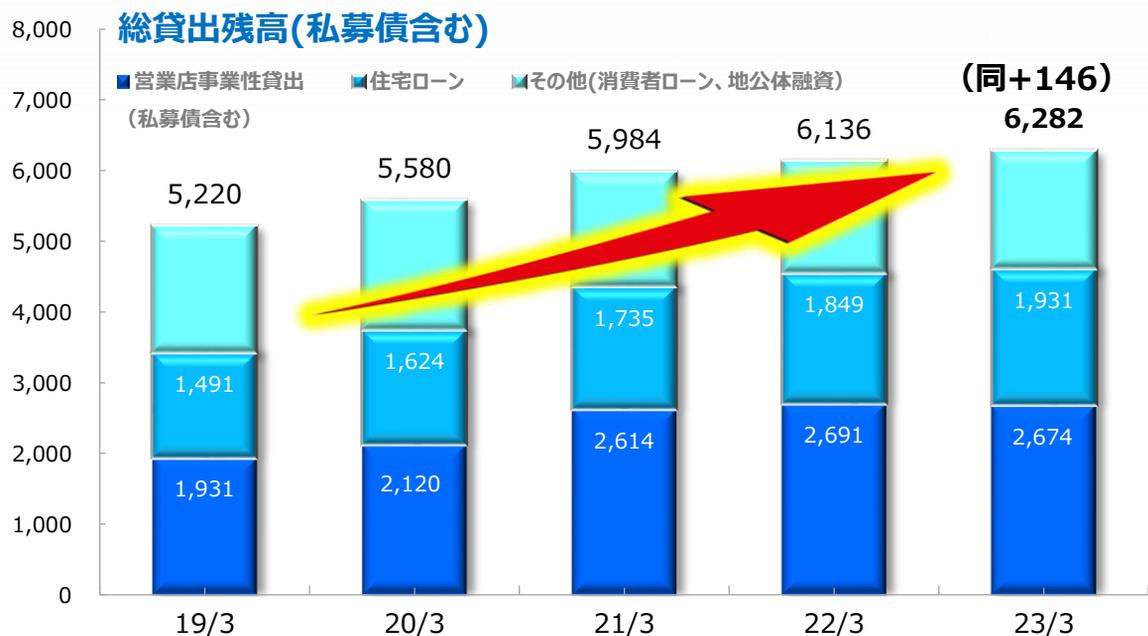
- 次期システム関連費用の他、地震に伴う営繕費、電気料の値上げ等により営業経費は微増

業績ハイライト（総貸出残高・総預かり資産）

総貸出残高(私募債含む)は、6,282億円(前年度比+146億円増加)

- ・ 営業店事業性貸出残高(私募債含む)は、同2,674億円と、コロナ関連融資の返済が進み▲17億円減少
- ・ 住宅ローンはソリューションプラザ・ローンプラザを中心に推進し、過去最高の1,931億円と同+81億円増加

(億円)



総預かり資産(預金+預かり資産)の残高は、8,633億円(同▲114億円減少)

- ・ 総預金は7,646億円とコロナ関連融資の運転資金活用が進み、法人預金を中心に同▲112億円減少
- ・ 預かり資産は不安定な相場環境により投資信託残高が減少したため、986億円と同▲1億円の減少

(億円)



中期経営計画進捗（行動指針・数値目標進捗）

中期経営計画

「ふくぎん 福島創生プロジェクト」

～企業活動(法人)とお客さまの生活(個人)を伴走支援し、地方創生に貢献します～

～私たちが暮らす地域のよりよい環境や暮らしやすい社会づくりに尽力します～

計画期間／2021年4月1日～2024年3月31日

5つの「行動指針」を掲げ、事業活動に全力で取り組みます。

1

お客さまの本業を徹底的に伴走支援します。

2

お客さまの生活を支援し、最適な資産形成をサポートします。

3

DX化の推進により、お客さまに新たなサービスを提供するとともに、業務の効率化・高度化、経費の削減を推進します。

4

ESG・SDGsに資する活動を実施し、よりよい環境と暮らしやすい社会づくりに貢献します。

5

経営基盤(経営資源の配置・人材育成・働きがいのある職場)を再構築し、収益力の強化を図ります。

2023年度（2024年3月期）目標

本業収益



10億円

10億円以上の安定した本業収益を確保する

OHR



4% 改善

2020年3月期対比
OHR4%の改善を図る

※ 2020年3月期OHR実績83.91%(単体ベース)
※ OHR(経費率) = 営業経費 / 業務粗利益
(日銀特別当座預金制度に基づくOHR)

事業性融資先



6,000先

うちメイン先1,250先
以上を目指す

※ メイン先：融資シェア1位をメイン先と定義

2022年度（2023年3月期）実績

13億円

実績 80.11%

4.52%改善

うちメイン先1,279先

5,617先

1

本業支援

コンサルティング業務

経営改善計画書を共に策定するなど、お客さまの課題解決や本業支援に向け伴走支援し、コンサルティング機能を強化します

ふくぎんBMS
(ビジネスマッチングシステム)

事業計画策定
支援

人材紹介

● 本業支援スキーム図



1

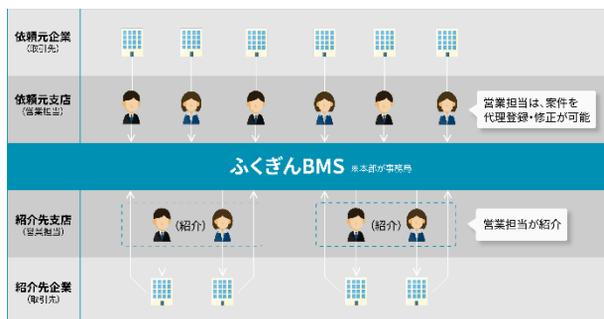
本業支援

ふくぎんBMS (ビジネスマッチングシステム)

● ふくぎんBMSとは

- ・ SBIが出資するリンカーズ社のビジネスマッチングシステム。お客さまの「ビジネスマッチングニーズ」を登録し、広域に配信することで、より成約精度の高いビジネスマッチングが実現

BMSスキーム図



※金融仲介機能のベンチマーク（選択18）

1

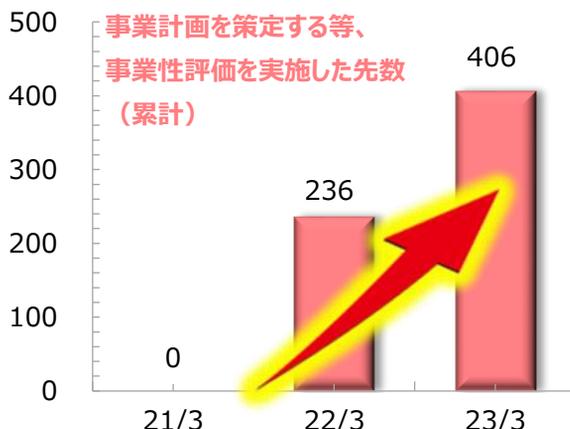
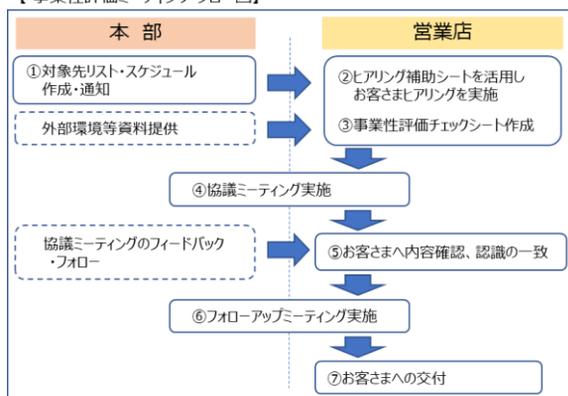
本業支援

事業計画策定支援

● 事業計画策定支援とは

- ・ コロナ禍におけるお客さまの課題解決や本業支援改善に向けた計画を共に策定し、課題解決に資する商品やサービスをSBIとの連携によるリソース等を活用し、本業を伴走支援する取組み

【事業性評価ミーティング フロー図】



※金融仲介機能のベンチマーク（共通5）

1

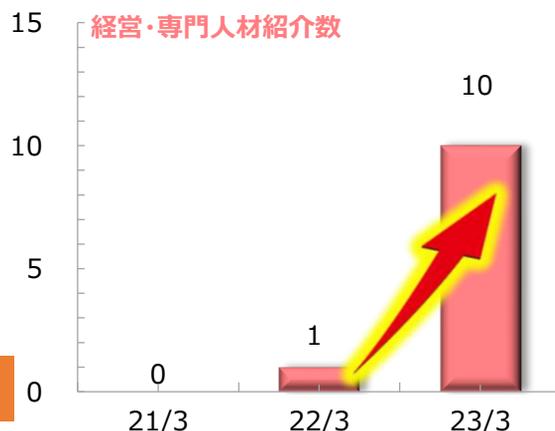
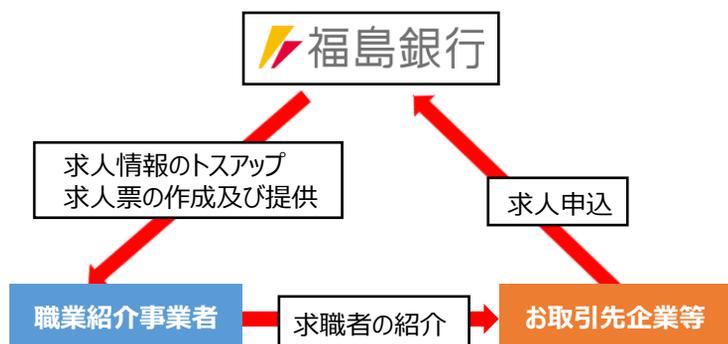
本業支援

人材紹介（有料職業紹介事業）

● 有料職業紹介事業とは

- ・ 地域企業における人材不足(経営人材・幹部人材・IT人材)が深刻化しており、当行はお客さまの課題を解決するべく、2022年4月より「有料職業紹介事業」の許可を取得。求人票作成により求人情報を蓄積、マッチングに繋がっております

有料職業紹介事業スキーム図



※金融仲介機能のベンチマーク（選択28）

1 本業支援 金融仲介機能のベンチマーク

● ライフステージ別の与信先数、および融資額

先数 82.1%
金額 86.0%

(先/億円)

	与信先計	創業期	成長期	安定期	低迷期	再生期
先数	5,617	237	390	4,224	530	236
金額	3,909	116	278	3,084	286	143

※金融仲介機能のベンチマーク（共通4）

- ・ 当行では、様々なライフステージにあるお取引先さまへ幅広い支援を行っております
- ・ 事業計画策定支援等により、創業期や低迷期・再生期にあるお取引先さまを支援することで、経営を安定させ、成長期・安定期へと繋ぐことで持続可能な成長を目指しています
- ・ 成長期・安定期にあるお取引先さまは先数で82.1%、金額で86.0%となっております

1 本業支援 金融仲介機能のベンチマーク

● 創業期のお客さまへの支援

- ・ 当行は、新たな企業を創出し企業活動が活発に行われる福島を創るために、県内15市町から認定連携創業支援事業者として認定を受けております。「創業支援セミナー」を開催し創業支援事業に取り組んでおります

創業支援セミナー



2022年度はオンラインにて計16回開催、278名の方に参加いただきました。



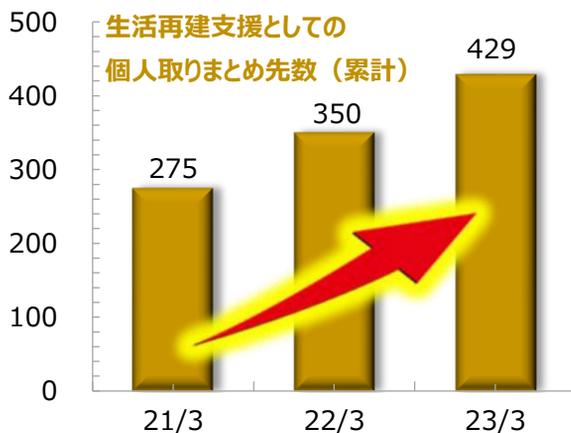
※金融仲介機能のベンチマーク（共通3）

2

個人取りまとめ融資

多重債務に苦しむお客さまや廃業を希望されるお客さまとの対話を重ね、債務を取りまとめるなど生活再建を応援しています

- 銀行員がお客さまの収入、支出、資産、負債、家族構成等を考慮し、最適なプランを提案します
- 後継者不在、コロナ禍などの影響により、ご融資の返済に不安をお持ちのお客さまに寄り添い伴走支援しています



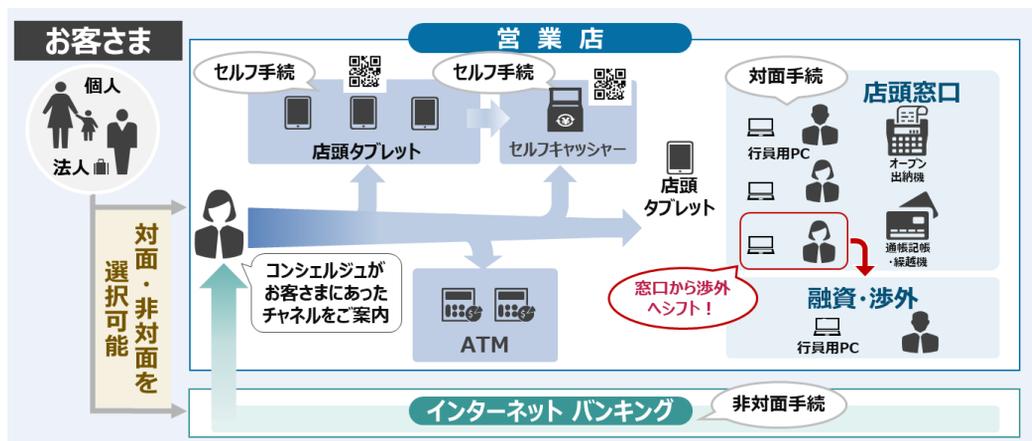
※金融仲介機能のベンチマーク（独自）

3

DX化の推進 次世代バンキングシステム

金融機関の心臓部「勘定系システム」を2024年中に稼働予定

- 当行とSBI、フューチャーアーキテクトの3社でクラウド上の「AWS(アマゾンウェブサービス)」に新システムを構築「年間コスト」を大幅に抑え、数年毎の更新費や切替時費用も不要
- QRコード等を利用し、伝票レス・印鑑レス・通帳レスなどスムーズな取引が可能。フィンテックなど外部業者と柔軟に連携し、お客さまへ最新の金融商品・サービスを提供

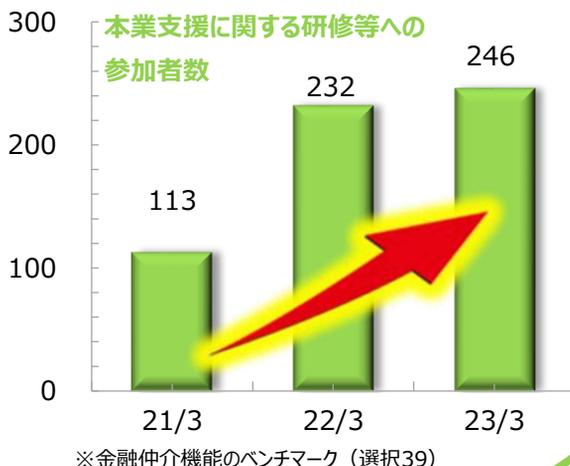


4

人材育成

本業支援に強い社員、事業承継・M & Aなどの専門分野の知識を持つ社員の育成を図ります

- 事業性融資研修プログラムの実施
- 中堅社員、新任支店長向け研修の充実
- 傾聴力と対話力を高める研修を実施
- SBIへの出向により専門分野の知識が豊富な社員の育成



4

人材育成

SBIグループへの出向

専門的な知識をもつ行員を育成するため、SBIグループへ出向を行っております

出向中の社員が「第1回 金融データ活用チャレンジ」において特別賞にあたる「SIGNATE賞」を受賞しました



※第1回 金融データ活用チャレンジとは

- ・金融業界の魅力を発信し、金融業界振興へつなげ、金融業界内外問わず人材を育成・発掘することを目的として一般社団法人金融データ活用推進協会（FDUA）が主催、SBIHD等が共催、金融庁・デジタル庁が後援する、初めてのデータ分析コンペティション。金融機関での実務経験に近いデータを提供し、実務的社会的に意義のある課題設定などが特徴
- ・AI開発コンペティションサイト「SIGNATE」において金融分野歴代1位の延べ1,658名が参加

※第1回テーマ

- ・住宅ローンの延滞防止を目的とした、延滞予測モデルの構築

※「SIGNATE賞」とは

- ・予測モデルを構築する中で検討したユニークな特徴量をレポートした方を表彰
- ・当社社員は特徴量「メインバンク率」を作成しAIの精度向上を図りました

※特徴量とは

- ・AI構築の際、予測の手掛かりとなるデータ

SBIとの連携

個人	利便性向上 AI導入	● AIプラットフォーム『DataRobot』で開発したAIの導入	AIでビッグデータを分析することにより、お客さま一人ひとりのニーズに沿った金融商品の紹介をするなど営業を高度化
	資産形成	● 共同店舗「福島銀行SBIマネープラザ郡山」の運営	ネット証券最大手であるSBI証券の金融商品・サービスを、対面による質の高いアドバイスと共に利用可能
	利便性向上 DX導入	● バンキングアプリの提供	アプリでの口座開設（来店不要、印鑑不要、通帳レス）や、家計簿アプリ「一生通帳by Moneytree」を提供
	利便性向上 DX導入	● 住信SBIネット銀行の『ミスター住宅ローンREAL』および『フラット35』の提供	当行ホームページから、住信SBIネット銀行の住宅ローンの各種申込手続き等がWEB上で利用可能
個人・法人	補償の充実 低コスト	● SBI損保の「自動車保険」「火災保険」の提供	WEBで完結する「自動車保険」や、住宅ローンのお客さまが必要な補償を自由に選べる「火災保険」を提供
	補償の充実	● 住宅ローンおよび各種ローンに団体信用生命保険を付保	住宅ローンのほか、事業者、医療従事者および個人向けの各種ローンに団信を付保し、万が一の時に備えた安心を提供
法人	サービス充実	● SBI新生銀行との連携によるサービスの充実	SBI新生銀行の有するサービス・金融商品・投融资を活用することにより、社会・お客さまへの高度なサービスを提供
	本業支援	● 吉本興業ホールディングスと「お客さま紹介」で連携し地方創生に貢献	福島県住みます芸人「ぺんぎんナッツ」と、地方創生をコンセプトにする「BSよしもと」の番組を通して、福島県の魅力やお取引先の事業活動・サービス・商品等を全国に情報発信
	本業支援 DX支援	● 『ふくぎんビジネスマッチングシステム』（ふくぎんBMS）の提供	お取引先のビジネスマッチングニーズ等を登録・データベース化し、高精度で成約確度の高い販路開拓や事業課題の解決等を実現
	業務効率化 DX支援	● クラウド型ワークフローシステム「承認Time」、「経費Bank II」、「勤怠Reco」の提供	社内のあらゆる書類の申請、承認、回覧、保管を電子承認フローに載せられるクラウド型ワークフローシステムを提供
	業務効率化 DX支援	● 企業の資金管理、資金調達支援のため「SBI Business Solutions(SBIBS)」と「OLTA」の商品を提供	SBIBSの「請求QUICK」と「入金QUICK」、OLTAの「INVOY」と「ふくぎんクラウドファクタリング」により多様化するニーズへ対応
	利便性向上	● SBIレミットの海外送金サービスの提供	地域企業が抱える外国人労働者のために、簡単に利便性の高い海外送金サービスを提供
	人材支援 DX支援	● スキマバイトサービス「タイミー」の提供	アルバイト人材が必要な企業と、働きたい人の時間をスマホアプリでマッチングさせ多様な雇用形態を支援

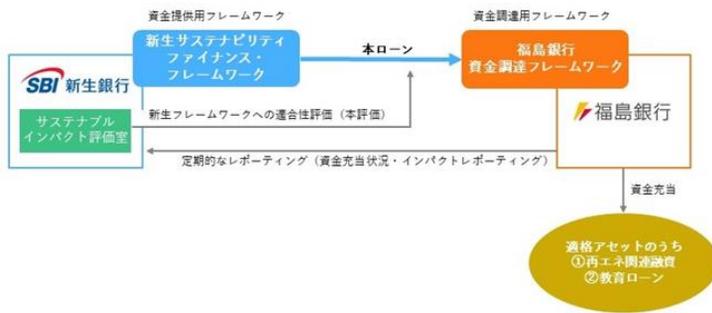
SBIとの連携

SBI新生銀行との連携により「グリーン/ソーシャル/サステナビリティファイナンス・フレームワーク」の策定、「サステナビリティローン」による資金調達を実施

「ネクスト100周年」の取組みとして持続可能な社会の実現に向け、「グリーン/ソーシャル/サステナビリティファイナンス・フレームワーク」を策定、本フレームワークに基づきSBI新生銀行より「サステナビリティローン」を調達しました。

調達した資金は、当行を通じて、再生可能エネルギー向け融資、雇用創出・維持に寄与する融資、教育関連融資に充当いたしました。

● スキーム図



福島銀行



SBI 新生銀行

※「サステナビリティローン」とは
資金用途を環境および社会課題
の解決に貢献する事業に限定した
ローン

中小企業の入出金管理・資金調達をDXでサポート

中期経営計画「ふくぎん 福島創生プロジェクト」の行動指針のひとつ「DX化の推進により、お客さまに新たなサービスを提供するとともに、業務の効率化・高度化、経費の削減を推進」に貢献する取組みです。

SBI Business Solutions



福島銀行



olta

● 請求書、口座のオンライン一括管理サービス

・2023年に開始予定のインボイス制度を見据えて導入

● 請求QUICK (SBI Business Solutions)

請求書の作成	承認機能	多彩な送付	入金誘込・督促	仕訳データ作成
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 作成しながらマスク設定 ✓ 請求書情報&CSV一括抽出・登録 ✓ 追加機能・XE機能 ✓ 印刷表示 ✓ 作成予約 ✓ 送付予約 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 多段階承認 ✓ 権限登録 ✓ 承認履歴設定 ✓ 多要素認証 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ リンク付きメール ✓ PDF添付メール ✓ 印刷・転送 ✓ 郵送代行 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 口座自動連携 ✓ 入金通知メール ✓ リアルタイム入金確認自動化 ✓ 入金確認自動付 ✓ 請求書送付 ✓ 関係機関と共有 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 会計ソフトに合わせて仕訳データCSV出力 ✓ アップロード可能 ✓ 出力レイアウトも自由に設定可

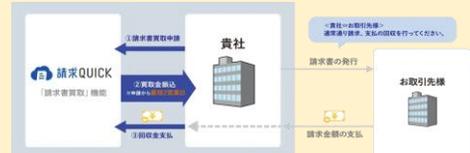
● INVOY (インボイ) (OLTA)

INVOYの主な機能			
インボイス連携・帳簿連携	入金集込	請求書発行	異種連携(請求書連携)・異種連携
メール連携	オンライン請求書発行サービス	口座振替連携	入金集込CSVアップロード
銀行連携	業務連携機能	請求書連携	請求書連携

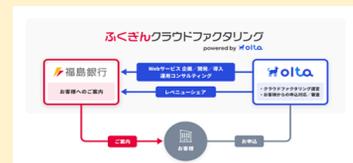
● ファクタリング資金繰り支援サービス

・ファクタリングとは、企業が商取引で発生した「入金待ちの請求書」を売却して、運転資金を調達する手法

● 入金QUICK (SBI Business Solutions)



● ふくぎんクラウドファクタリング (OLTA)

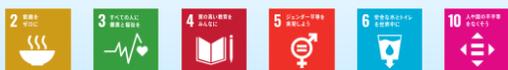


ふくぎんSDGs宣言

福島銀行は、「ふくぎんSDGs宣言」を制定し、社会の課題、経済の課題、自然環境の課題などについて積極的に取り組み、事業活動を通して、地域経済・地域社会の持続的な発展に貢献してまいります。

○ 社会の課題への対応

- ・ 全社員参加型ボランティア活動の継続
- ・ 寄付型融資・寄付型私募債の取り扱い
- ・ 障がい者施設製品の販売促進
- ・ 福島の子ども応援助成金の支給
- ・ 社員が業務と子育てを両立できる環境を提供する取り組みである「イクボス宣言」の実施



○ 経済の課題への対応

- ・ お客さまの本業を徹底的に伴走支援
- ・ SDGsに資する商品・サービスの提供
- ・ お客さまの生活を支援し、最適な資産形成をサポート
- ・ 地域事業や行政と連携した地域経済への貢献



○ 自然環境の課題への対応

- ・ 再生可能エネルギー関連融資への積極的な取り組み
- ・ サステナブル関連融資への取り組み
- ・ DX化の推進によるペーパーレス化など環境負担の軽減
- ・ 公益信託福島銀行ふるさと自然環境基金の継続



○ 全員参加のSDGs活動

- ・ 営業店や部署ごとにSDGsの目標を掲げ、私たちが暮らす地域のよりよい環境と暮らしやすい社会づくりに貢献します。



サステナビリティ基本方針の策定およびTCFDへの賛同

当行は、持続可能な社会の実現と当行の企業価値向上の両立を図るため、サステナビリティの新たな方針として、「サステナビリティ基本方針」を策定しました。

併せて、気候変動が企業の財務内容に与える影響について適切な情報開示を求める「気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）」（※）提言への賛同しました。今後、気候変動がもたらすリスク・機会に関する情報開示の充実を図るとともに本方針に基づき、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

サステナビリティ基本方針

福島銀行グループは、「経営理念」に基づく企業活動を通して、社会の課題、経済の課題、自然環境の課題などについて積極的に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献するとともに、地域の発展と当行グループの中長期的な企業価値の向上に努めてまいります。



※「気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）」とは、主要国の中央銀行や金融監督当局等が参加する金融安定理事会により2015年設立された組織。2017年に公表した最終報告のなかで、企業等に対して気候変動がもたらすリスクと機会の財務的影響を把握し、開示することを提言しています。

役員紹介

取締役



取締役社長
加藤 容啓



常務取締役
佐藤 明則



常務取締役
鈴木 岳伯



取締役
佐藤 俊彦



社外取締役
二瓶 由美子



社外取締役
石井 浩



社外取締役
篠原 秀典

監査役



常勤監査役
箭内 貴志



社外監査役
鈴木 和郎



社外監査役
紺野 明弘

執行役員



常務執行役員
宮下 恵洋



執行役員
横山 利幸



執行役員
渡辺 敦雄



執行役員
草野 真之



執行役員
寒河江 英一



総合企画部

福島県福島市万世町2番5号

TEL : 024-525-2525 (代)

<https://www.fukushimabank.co.jp/>